

クリニカルパス通信

クリニカルパスとは？



「クリニカルパス」

1985 年に米国の Karen Zander によって開発され、1995 年頃より日本に導入されました。

日本クリニカルパス学会によると「患者状態と診療行為の目標、および評価・記録を含む標準診療計画であり、標準からの偏位を分析することで医療の質を改善する手法」と定義されています。

<パスのメリットは？>

病院・医療従事者のメリットは、医療が標準化される、チーム医療が推進される、教育ツールとなる、病院経営も改善される、などが言われています。

患者・家族にとっては、入院から退院までの治療・検査・処置などの過程がわかりやすく、積極的に治療に参加することが期待されます。



パス委員会 ミニパス大会運営グループより

今年度のミニパス大会については、新型コロナウイルスの感染拡大の今後の状況を考慮して、開催時期を決定いたします。内容は、看護部の皆様に行ったアンケートの結果を基に検討中です。アンケートへのご協力、ありがとうございました。

(看護管理室：立石 美枝子)



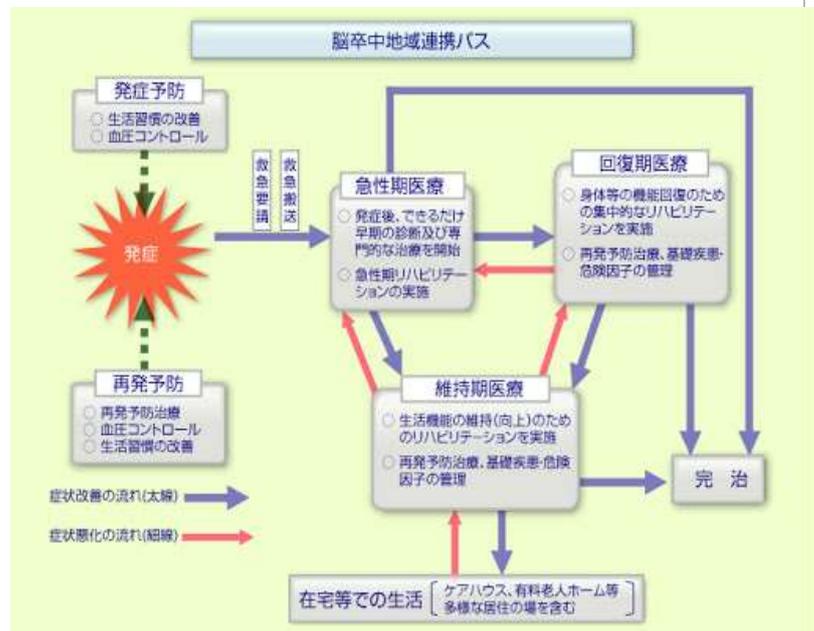
「地域連携パスについて...」その2

前回、地域連携パスについての概要をお伝えしました。当院では、

＊大腿骨近位部骨折地域連携パス

＊脳卒中地域連携パス

の2つを使用している、とお伝えしましたが、そのうちの「脳卒中地域連携パス」を例に、その流れのイメージを下図でわかりやすく示します。



＊地域連携クリニカルパスを使用して、疾患別の標準的な治療計画に従って展開していくことで、患者さんに切れ目のない最善の連携治療の提供をすることができます。





目指せ、
パス適用率
45%!

現在運用中のパスは 277 個

外科・呼吸器外科	135
整形外科	70
看護部	17
形成外科	15
小児科	15
眼科	9
婦人科	6
泌尿器科	4
内科	2
脳神経外科	2
循環器内科	1
耳鼻咽喉科	1



新パス紹介(4~6 月承認分)

- 内視鏡的食道静脈瘤治療 (当日入院) (外科・呼吸器外科)
- 痔瘻根治術 (外科・呼吸器外科)
- ROSC (外科・呼吸器外科)

目標達成に向けて、
ご協力をお願いします。



2021 年 4 月~6 月
全体適用率
34.6%

【2021 年 4~6 月パス適用率】

